

いのはな便り

肺がん CT 検診認定機構メールマガジン
第5号 (2014年9月号)

肺がんCT検診をおこなうのに理想的なCT装置とは

東京都予防医学協会
金子昌弘

放射線機器関連の雑誌「月刊 新医療」10月号で施設の特徴別のCT装置への期待が特集になっており、「検診施設における肺がんCT検診のために求められる機能」として、私の拙文が掲載されています。すでにご覧になったかたもいらっしゃるかと存じますが内容を紹介いたします。

検診で用いるCTへの期待として次の3点を挙げてみました。

第1は、安全性という意味から、さらなる被ばく量の低減。これに関しては画像の再生方法として各社から逐次近似応用画像再構成法が発表されており、単純撮影に近い条件でも撮影が可能になっています。現在上位機種にのみ搭載されているが、普及機にも搭載を希望します。また、現在画像の構成に時間がかかっているが臨床と異なり検診では即時性は必要ないので、むしろ多少時間はかかっても低線量化を目指してほしいと考えています。

第2は、スループットの向上。撮影時間は一人数秒にまで短縮しているが、現在の装置はすべて受診者が水平に寝なくてはならないので、装置への昇降や位置合わせに時間がかかってしまいます。撮影台を上下しなくてもよいように踏み台を作るなどの工夫はされているが、それでも受診者の入れ替えに数分を要しており、検診で専用の立位、あるいはそれに近い体位で撮影できる装置の開発が望まれます。

第3は、時代の流れに逆行するようですが、画像の低精細化。現状のように高精細化や薄切化が進むと、5mm以下のすりガラス結節も容易に指摘ができる状態になっています。このような画像は日本CT検診学会のガイドラインでは拾い上げなくても良いことになっているが、見えてしまえば指摘せざるを得なくなり、結果的に不要なフォローアップや生検なども増やすことになりかねません。肺がん検診に特化したCT装置を目指すのであれば、これ以上の高精細化は不要でむしろ低精細化が必要と考えます。

第1、第2の問題に関しては、実際に検診に関わっている立場の方からの異論はないと思われませんが、第3の低精細でよいという問題に関しては、意見が分かれるところかと思えます。反論などありましたら是非お寄せください。

本機構主催の講習会などのお知らせ

認定医師用読影トレーニング

認定医師用読影トレーニングが下記の期間行われます。これは認定医師更新のための必須項目（7単位）で、5年の認定期間内に1度以上の受講が必要です。

解答期間：平成26年10月1日（水）～12月31日（水）

アクセス方法：<http://www.ct-kensin-nintei.jp/ishi/training/>

ホームページ「医師に関する情報はこちら」より

左側医師メニュー「認定医師用読影トレーニング」内

※症例PDFを開くためにはパスワードが必要です。

認定医師の皆様には後程パスワードをメールにてご案内させていただきます。

※読影結果をお送りいただけましたら、トレーニング終了証明書をお届けいたします（来年1月の予定）。

※正解と解説は解答期間終了後にホームページ上で公開いたします。

※このトレーニングはあくまでも自己研鑽のためのものであり、試験ではありません。

第5回 肺がんCT検診認定技師 更新講習会

・日時 2014年11月1日（土曜）

・場所 国立がん研究センター 中央病院

<http://www.ct-kensin-nintei.jp/gishi/koushin/kousyukai/index.html>

受講申し込みはすでに終了しています。

第8回 認定医師更新講習会 兼 認定医師新規認定講習会

・日時(予定)：2015年2月14日(土曜)

・場所(予定)：大阪国際会議場

詳細は決定次第、HPへ掲載いたします。

第13回 肺がんCT検診認定技師 定期講習会

・日時(予定)：2015年2月28日（土曜）3月1日(日曜)

・場所(予定)：駒沢大学

詳細は決定次第、HPへ掲載いたします。

第6回 肺がんCT検診認定技師 更新講習会

・日時(予定)：2015年2月28日（土曜）

・場所(予定)：駒沢大学

詳細は決定次第、HPへ掲載いたします。

関連学会等主催の会議

第 29 回 肺がん集検セミナー

日時 2014 年 11 月 16 日 (日曜)

場所 国立京都国際会館 第 8 会場

世話人：祖父江友孝 (大阪大学大学院医学系研究科環境医学 教授)

<http://jlcs55.umin.jp/seminar.html>

第 55 回日本肺癌学会学術集会に併設して行われますが、単独でも参加可能です。

今回 C T 検診に特化した話題は無いようですが、肺がん検診に関する基本的な考え
方なども学ぶことができると思います。

編集後記：

全国的に不順な天候が続いておりますが、金木犀の香りに確実な秋の訪れを実感し
ております。

8 月 31 日に行われました、認定医師の新規および更新の講習会は参加希望者が多く
急遽別会場に中継も行い、不自由をおかけしました。多数の新規、更新希望者に受講
していただき、関心の高さに驚かされております。

今回受講していただいた方々は、その受講証をもとに、更新あるいは新規の申請を
していただき、年内の審査会で審査することになります。これらの申請書類の提出も
お忘れなきようお願いいたします。

また、読影トレーニングも 10 月 1 日から始まり、この受講も更新の必須条件です
のでお忘れないように早目の受講をお願いいたします。

認定技師に関しては試験会場の都合で一回の受験者が限られてしまうのでご迷惑
をおかけしてはありますが、やっと認定技師不在の空白県は無くなりました。施設認
定を行うには常勤の認定技師の存在は不可欠ですが、これで施設認定を行う準備がで
てきたように思います。

現在、認定施設に認定基準を作成する委員会が発足し、年内程度の成立をめどに検
討を重ねており、これが成立しますと、認定医師、認定技師の存在価値が明らかにな
ります。資格の更新もお忘れなきようお願いいたします。(文責：金子昌弘)

編集責任者 金子昌弘

TEL : 043-226-1298

FAX : 043-226-1299

E-mail: jimdai@ct-kensin-nintei.jp

WEBSITE: <http://www.ct-kensin-nintei.jp/>